

説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.39	行	4行目
事業名	堤防補強		河川名	木津川			
府 県	京都府	市町村	京都市伏見区		地先	淀生津	

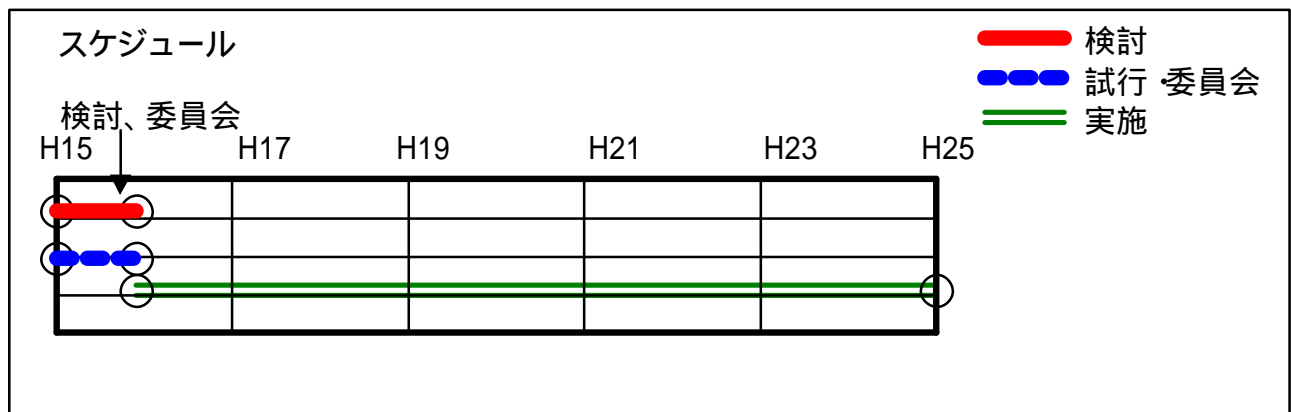
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることになる。

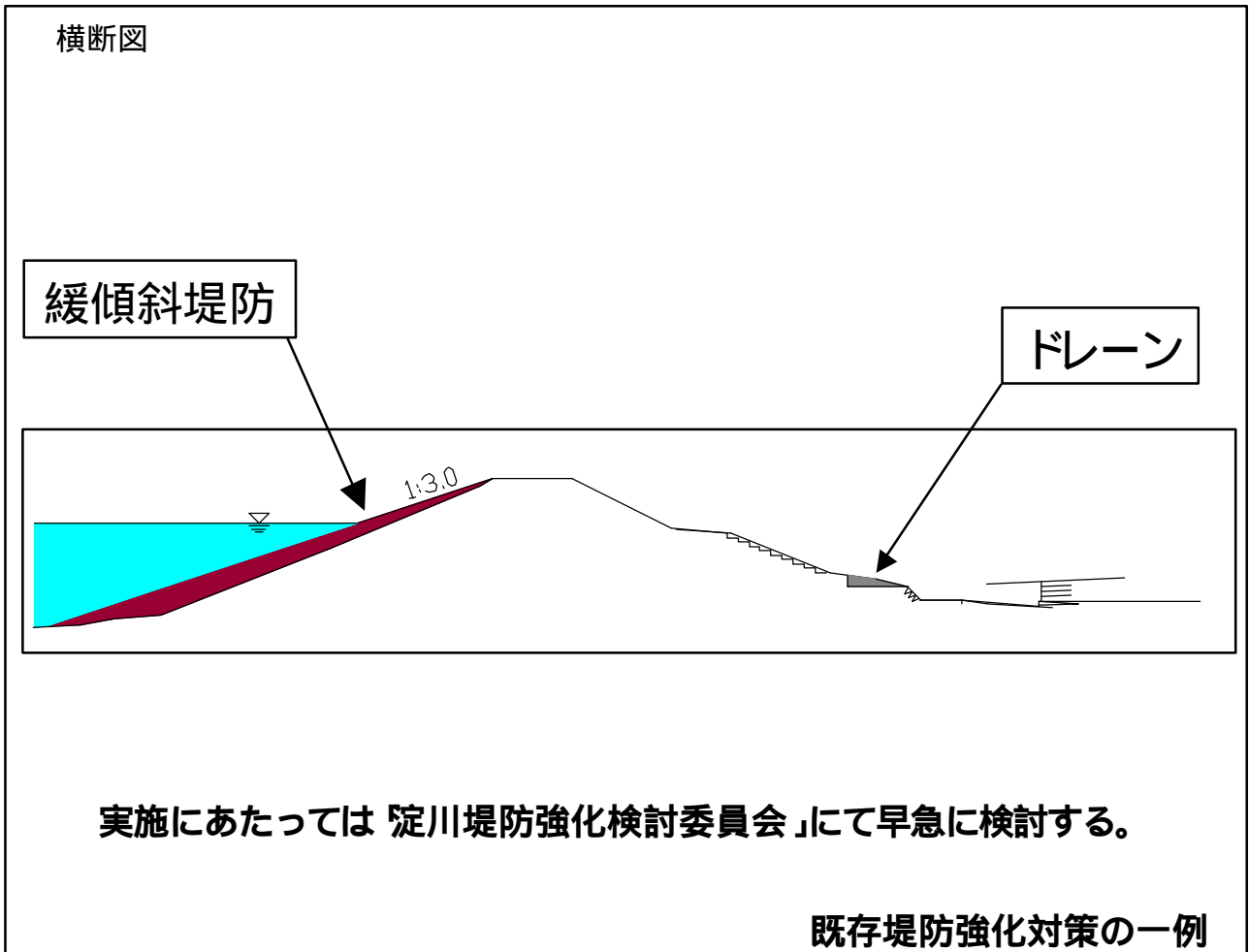
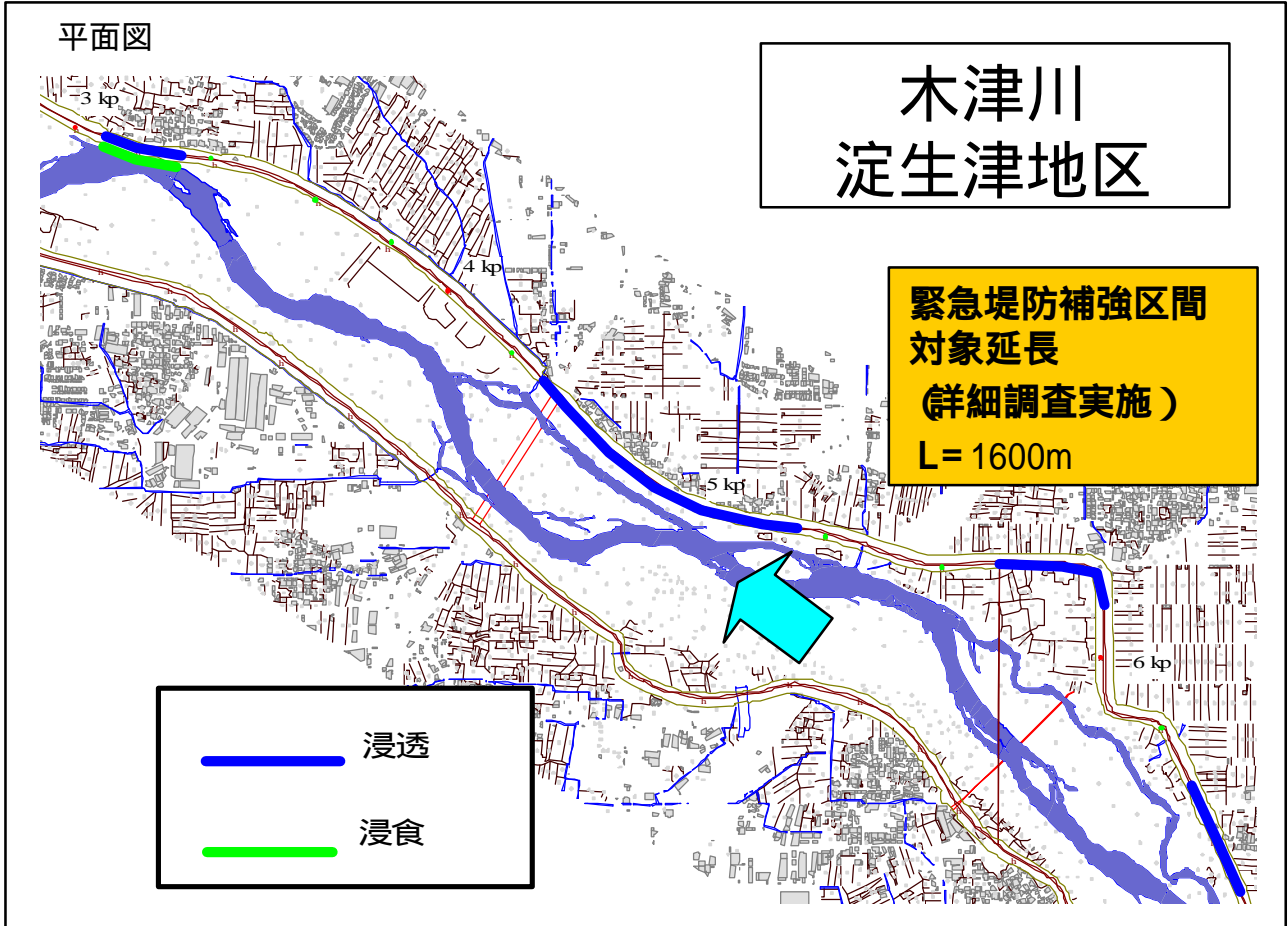
河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防整備区間及び緊急な対策が必要な区間において堤防補強を実施する。併せて対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して詳細調査を行い、必要な箇所について緊急に堤防補強を実施する。

位置図

具体的な整備内容
 緊急堤防補強区間対象延長
 (詳細調査実施) 約 1600m

事業の数量 諸元等
 浸透対策 L = 1600m
 浸食対策 L = 200m

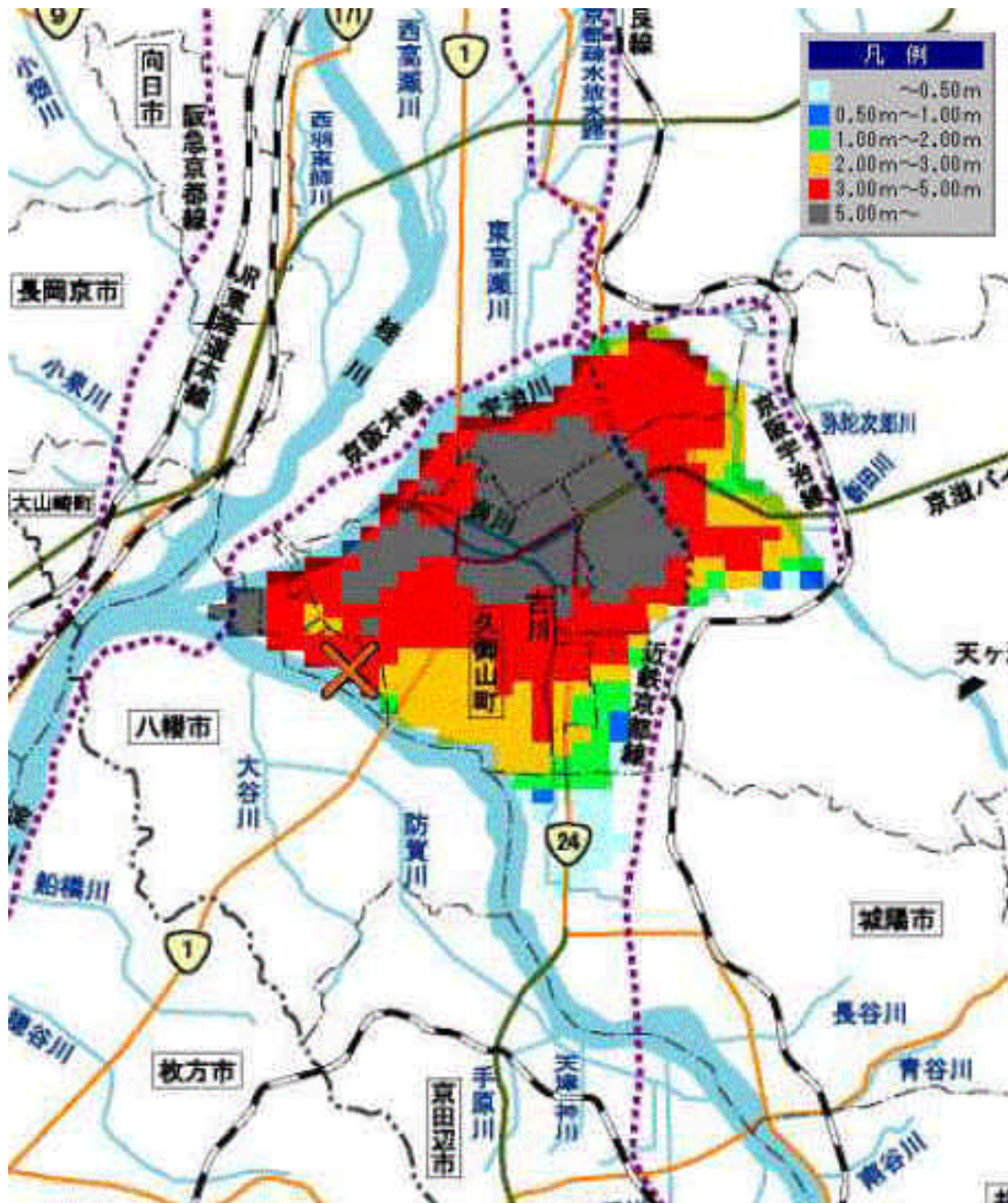




整備効果

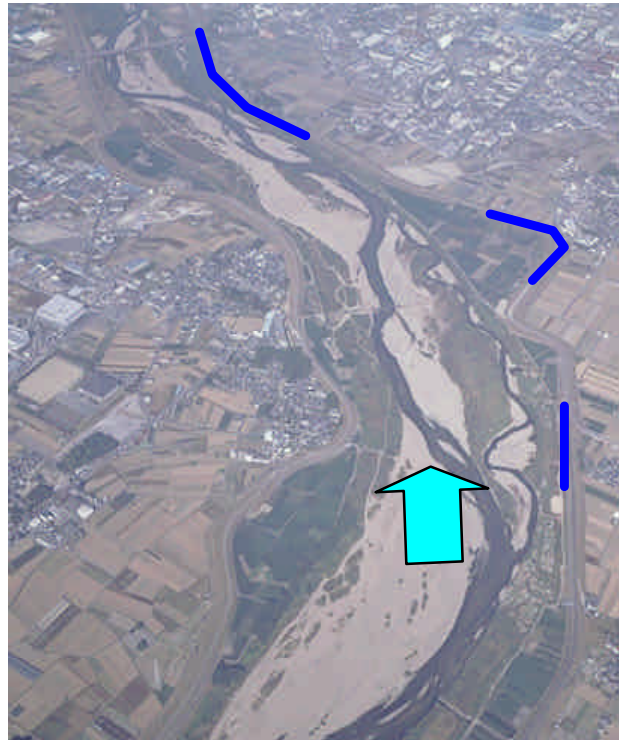
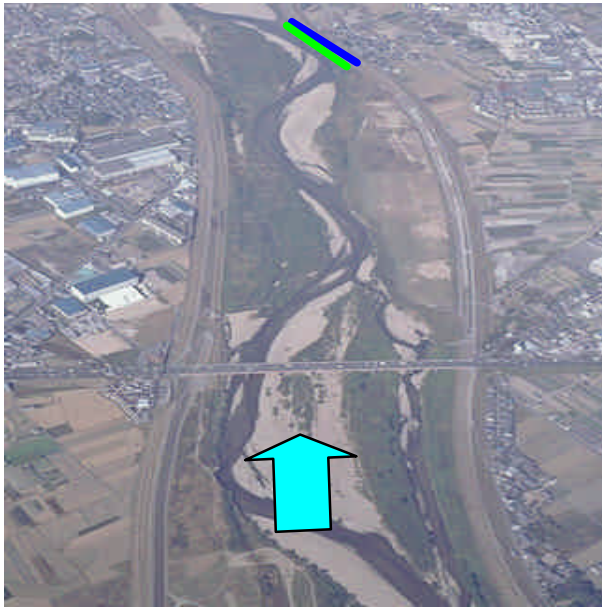
想定氾濫被害 (「5313」型 2.0倍降雨時)

被害額	34,062	(億円)
浸水面積	3,188	(ha)
被災人口	91,925	(人)
浸水家屋	30,633	(戸)



提案理由 (代替案含む)

現況



現地



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.39	行	4行目
事業名	堤防補強		河川名	木津川			
府 県	京都府	市町村	城陽市		地先	富野	

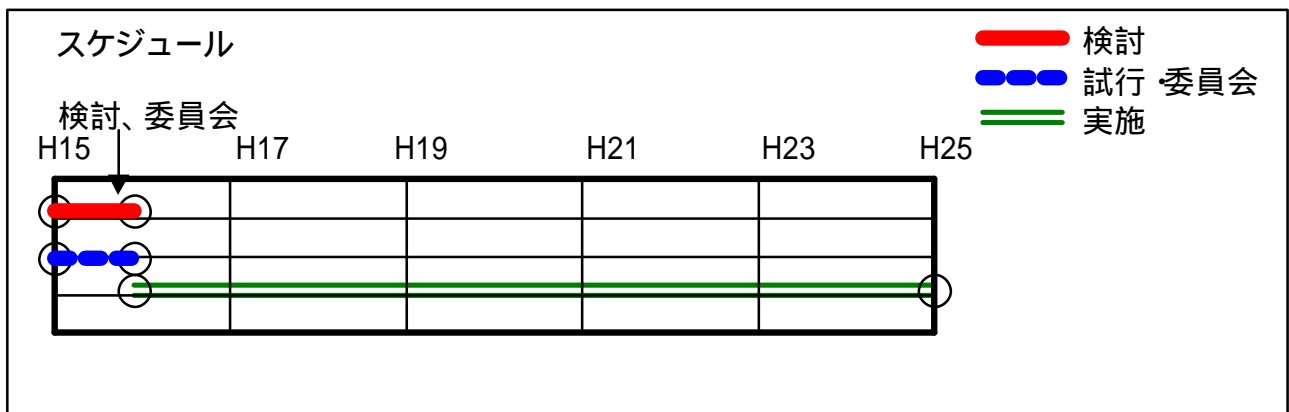
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることになる。

河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防整備区間及び緊急な対策が必要な区間において堤防補強を実施する。併せて対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して詳細調査を行い、必要な箇所について緊急に堤防補強を実施する。

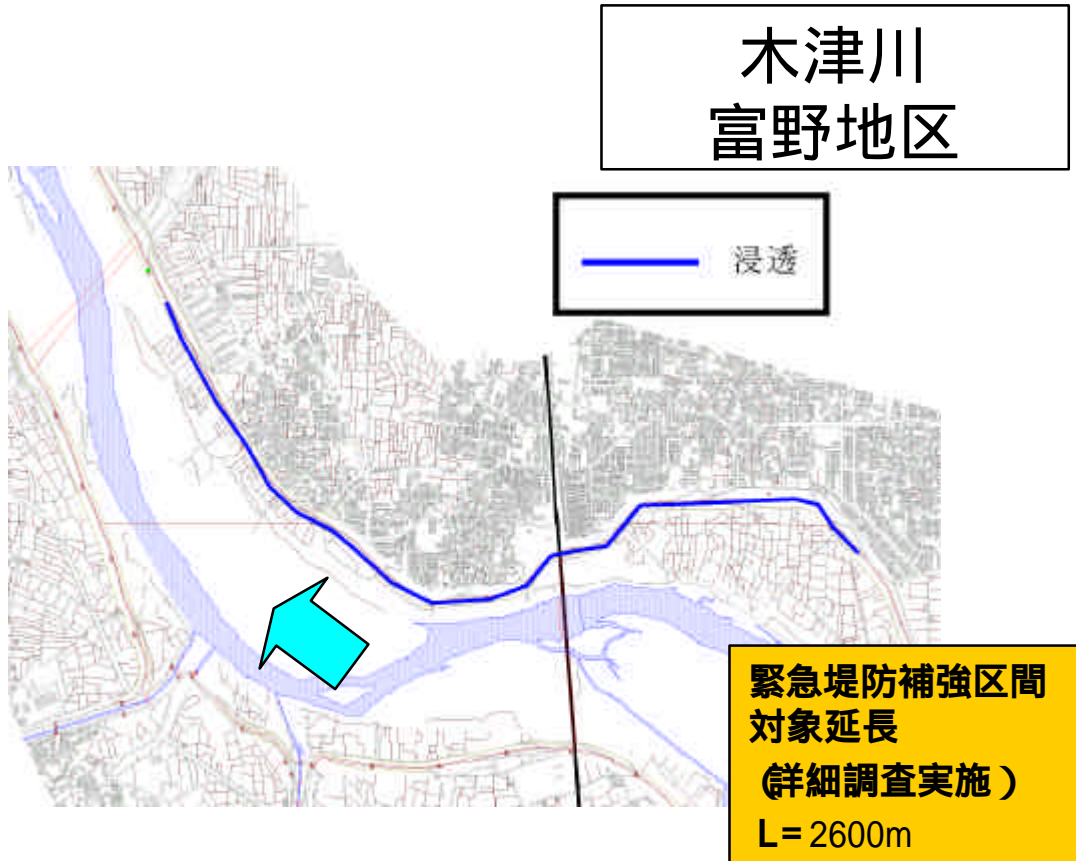
位置図

具体的な整備内容
 緊急堤防補強区間対象延長
 (詳細調査実施) 約2600m

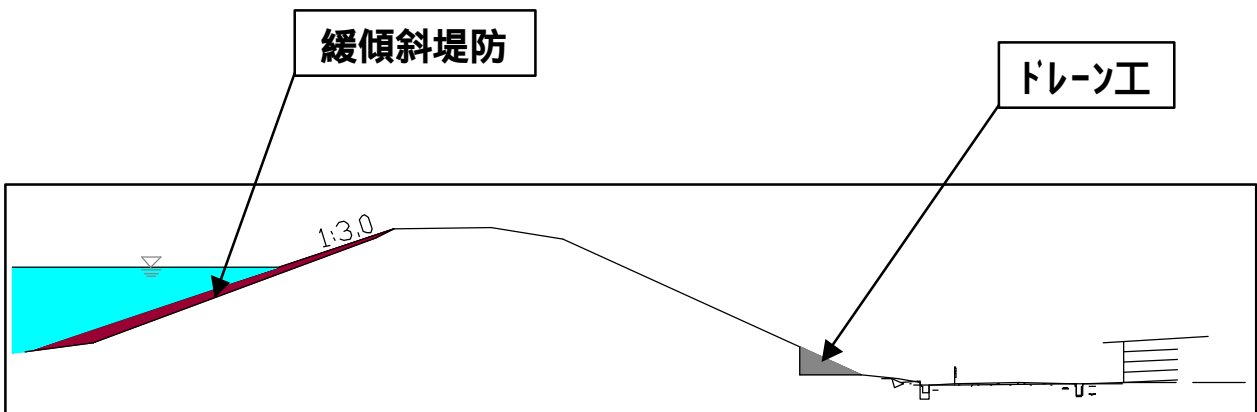
事業の数量 諸元等
 浸透対策 L = 2600m



平面図



横断図



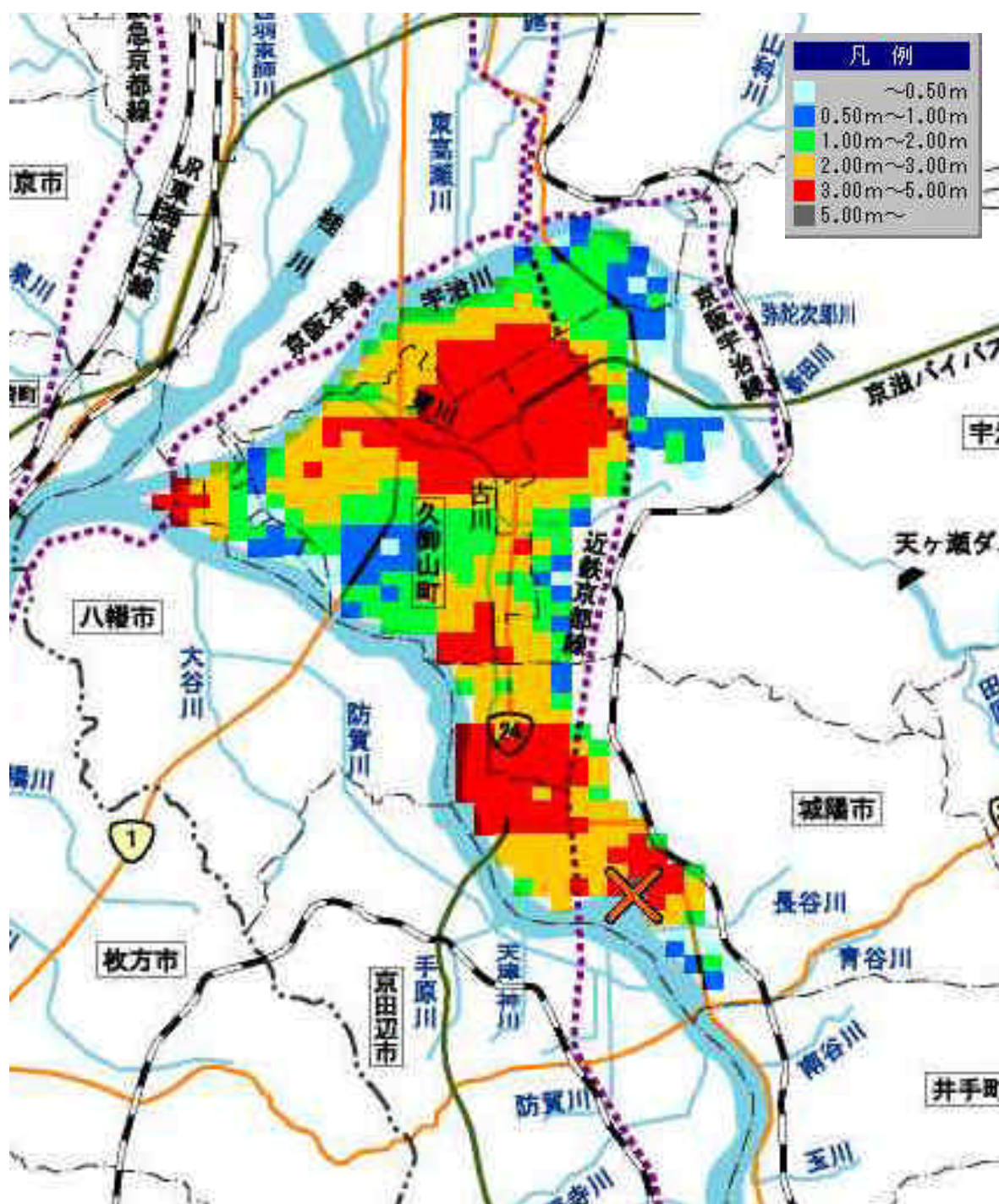
実施にあたっては「淀川堤防強化検討委員会」にて早急に検討する。

既存堤防強化対策の一例

整備効果

想定氾濫被害 (「5313」型 2.0倍降雨時)

被害額	25,329	(億円)
浸水面積	3,722	(ha)
被災人口	115,561	(人)
浸水家屋	38,006	(戸)



提案理由 (代替案含む)

現況



現地



説明資料(第2稿)での記載箇所		章項目	5.3.1	ページ	p.39	行	4行目
事業名	堤防補強		河川名	木津川			
府 県	京都府	市町村	相楽郡山城町		地先	上狛	

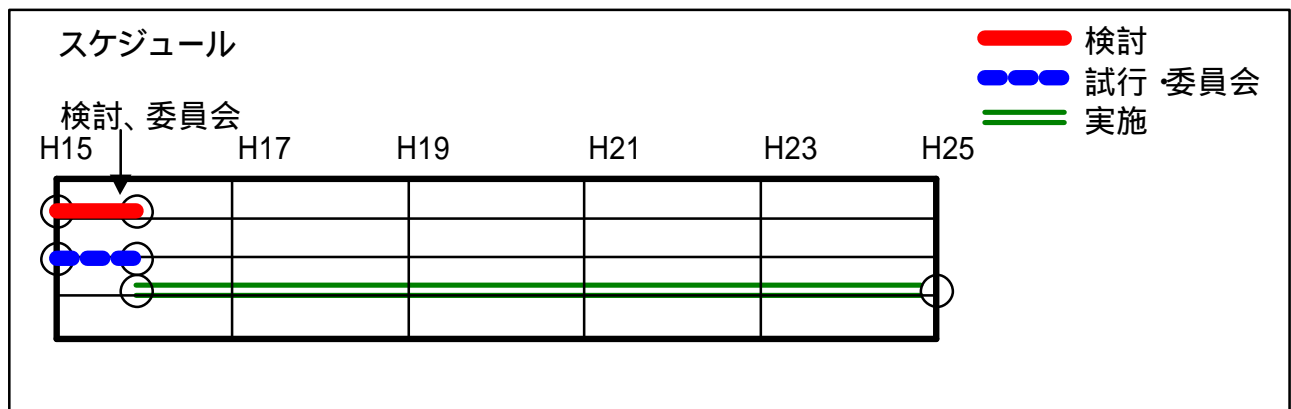
現状の課題
 現在の堤防は必ずしも防災構造物としての安全性について十分な信頼性を有していない。破堤による被害ポテンシャルは現在においても増大し続けており、破堤すれば、人命が失われ、家屋等が破壊され、ライフラインが途絶する等、ダメージを受けることになる。

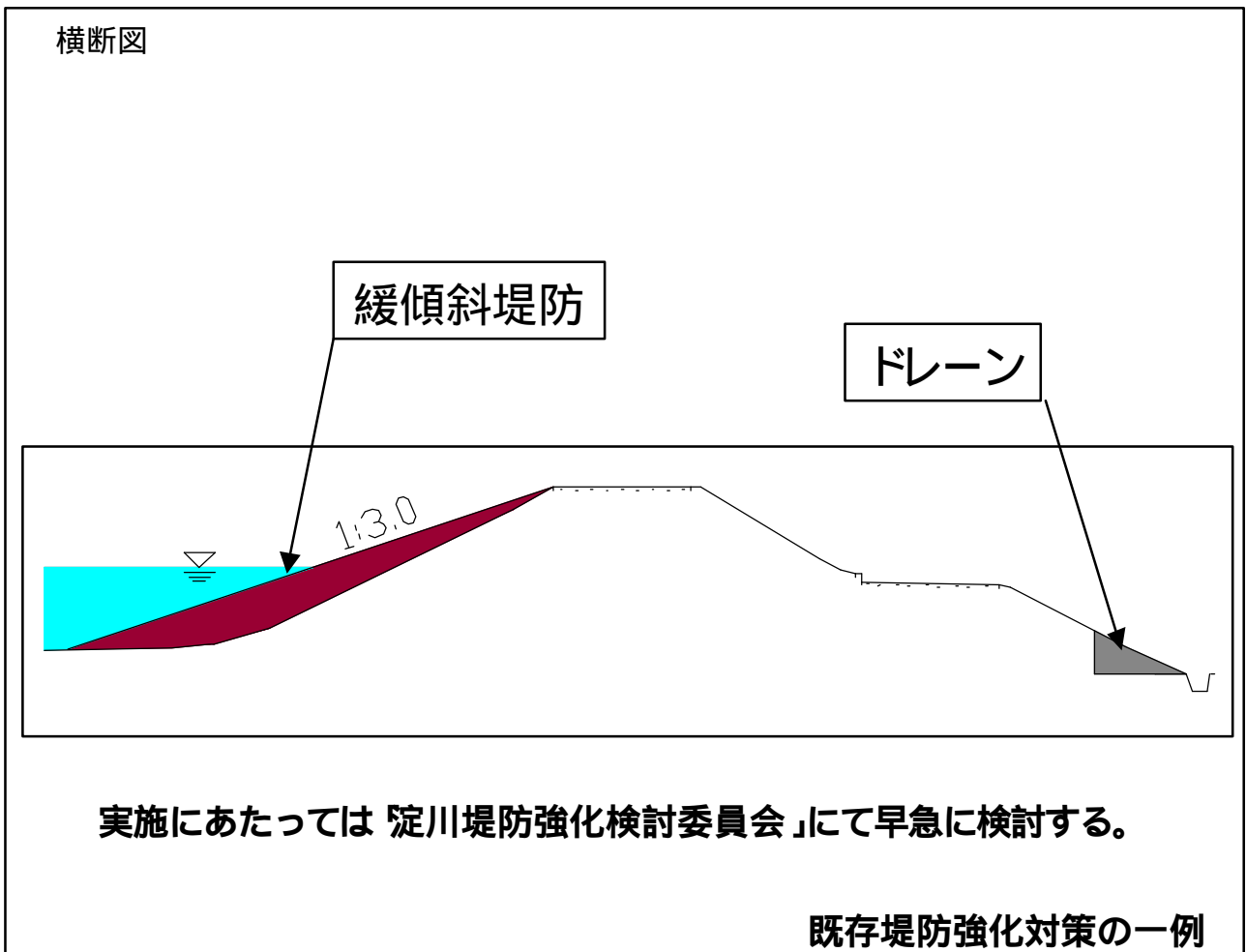
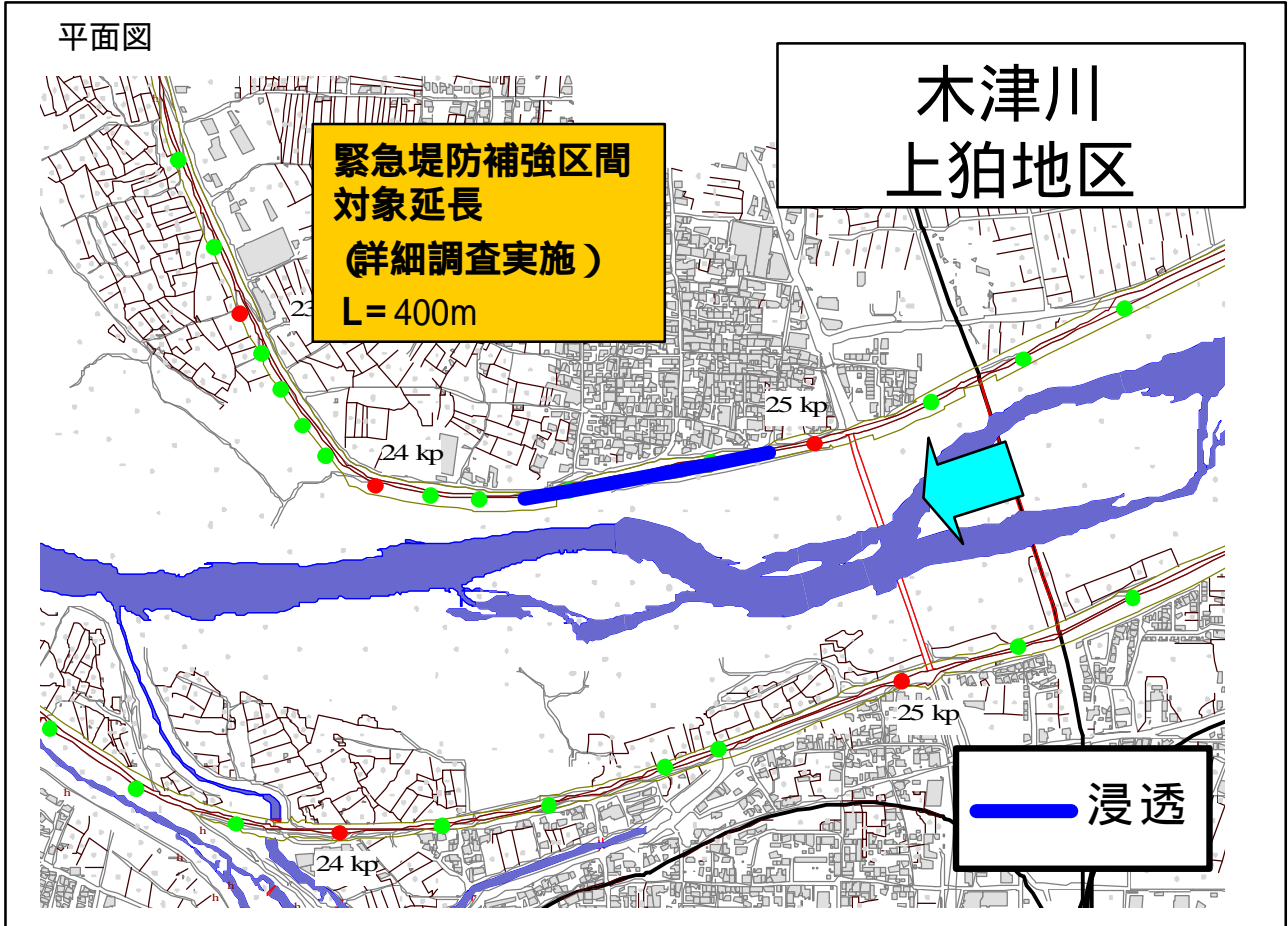
河川整備の方針
堤防補強
 高規格堤防整備区間及び緊急な対策が必要な区間において堤防補強を実施する。併せて対策効果のモニタリングを実施する。実施の優先度は、破堤したときの背後地への被害影響、堤防危険度を考慮して詳細調査を行い、必要な箇所について緊急に堤防補強を実施する。

位置図

具体的な整備内容
 緊急堤防補強区間対象延長
 (詳細調査実施) 約400m

事業の数量 諸元等
 浸透対策 L = 400m

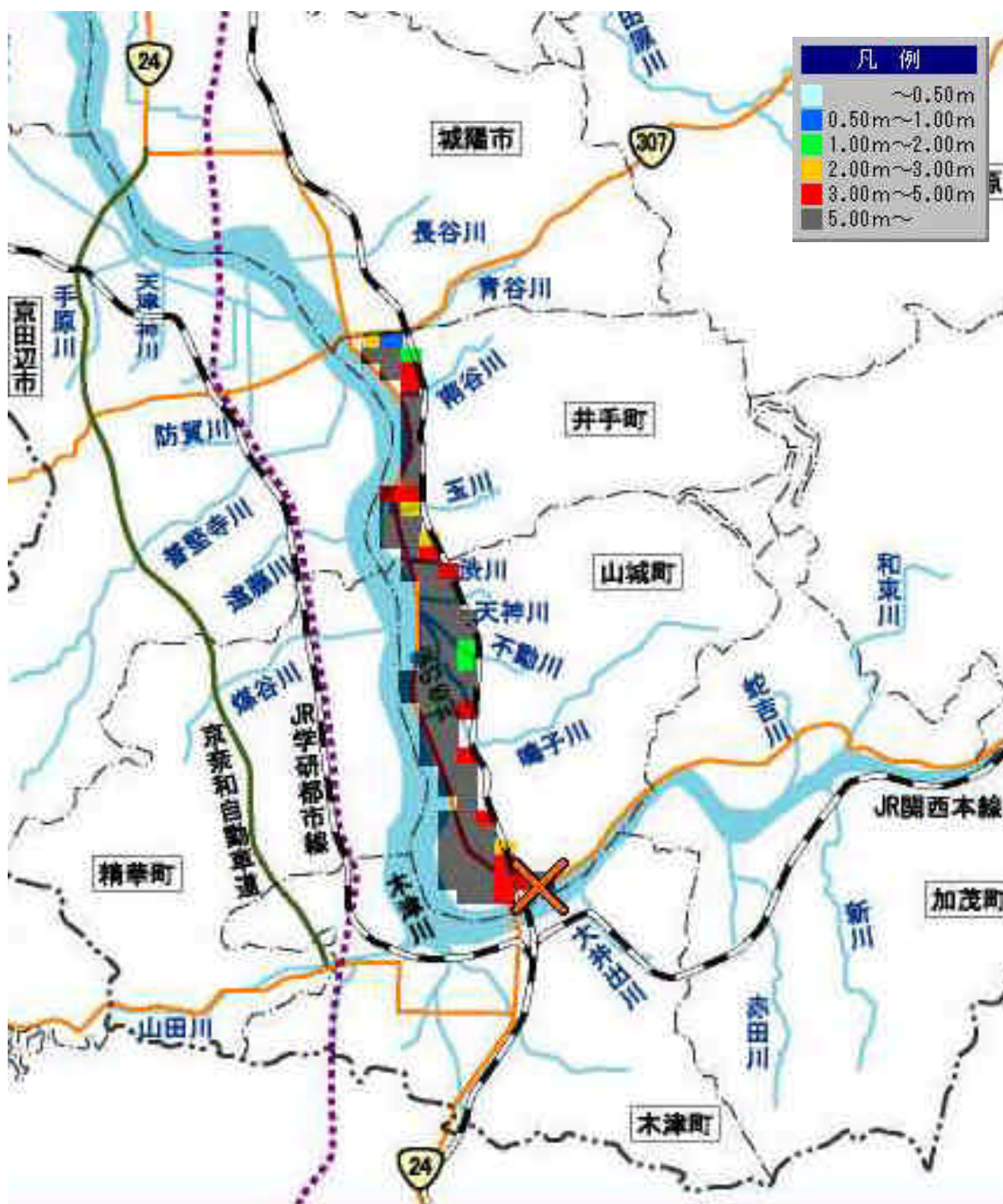




整備効果

想定氾濫被害 (「5313」型 2.0倍降雨時)

被害額	3,125	(億円)
浸水面積	601	(ha)
被災人口	7,450	(人)
浸水家屋	2,179	(戸)



提案理由 (代替案含む)

現況



現地

